



佐藤 進

時は今

作曲家中山晋平の生涯を描いた映画を見た。晋平は信州中野の出身である。映画とは野口清人監督「ワラ、歌は流れる 中山晋平物語」。信州大学六十周年記念行事の一として上映された。映画をみせてもらったから、晋平の事跡を徹底して調べ尽くした監督のお話があり、文理学部同窓生とともに「背くらべ」

輝かしい無形ブランド

「鈍をおきめて」などがある。晋平と聞くと、行ってみずにはおられなくなる。つい教日日前も、早朝、晋平や藤村を歌う関西のコースの公演がこれから松川村で行われるとの緊急情報が入り、とんで行ったものである。午前十時半からの公演を急いで見ることができた。野口監督によれば、晋平は

OB野口監督の映画鑑賞

信大文理 同窓会 中山晋平の歌も合唱



中山晋平の名曲を歌う同窓生たち

信州大学の文理学部同窓会(可知偉行会長)は五日、松本市旭三の松本キャンパスで、文理学部第六回卒業生の映画鑑賞・野口清人さん(まじ)長野市での作品上映会を開いた。中野市出身の作曲家・中山晋平の生涯を描いた映画「ワラ、歌は流れる 中山晋平物語」を上映し、同窓生や市民ら約百二十人が鑑賞した。中山が苦勞を重ねながら作曲家になり、「カチユーシャの唄(うた)」や「ゴンドラの唄」など数々の名曲を生み出した経緯や、時代背景を描いた作品を上映した。上映後は、文理学部音楽研究会のOBらを中心に、「雨降りお月さん」や「背くらべ」を全員で歌った。野口さんの講演

会もあった。卒業後にジャーナリストとして活動した野口さんは、「中山の生涯は脚色されながら伝えられている」と考え、綿密な調査に基づいて映画を制作したという。上映会は、信大の創立六十周年を記念して開かれた。(有賀文香)

リレーコラム

私たちは地域のブランドと云うと物ばかりを思いやすい。観光名所の宣伝もいろいろ、信濃路は昔も今も音楽好きの住まう所だということを自覚しているのではないだろうか。それ自体が無形の一大ブランドなのだ。(地域営農リーダー育成塾「松本新興塾」塾長 安曇野市 今、松本、安曇野、塩尻、木曾を連ねて見ると、ここ

佐藤進さんは昭和十八(一九四三)年、上松町生まれ。国内外の銀行で外国為替取引の仕事を行う傍ら、京都大学などで国際問題や経済を教えた。現在は松本大学松商短大部の非常勤講師も務め、主な著書に『留学生を育てる』があります。安曇野市穂高有明在住。